

金融経済概況

【全体感】

道北地域¹の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している。

すなわち、最終需要の動きをみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している。観光は、引き続き厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、横這い圏内の動きとなっている。

労働需給は、弱めの動きがみられている。金融面では、預金、貸出とも前年より増加している。

【各論】

1. 需要項目別動向

個人消費については、新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している。

主要大型店は、衣料品に持ち直しの動きがみられるほか、食料品は底堅い動きとなっている。家電販売は、緩やかに持ち直している。また、乗用車販売は、供給制約の影響により、持ち直しの動きが一服している。

観光は、引き続き厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

旭川地区のホテル客室稼働率、ホテル・旅館宿泊客数、観光客の入込みとも、低い水準にあるものの、緩やかに持ち直している。

公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

住宅投資は、横這い圏内の動きとなっている。

¹ 道北地域とは、上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内のことをいう。

新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家は減少している。分譲は増加している。

2. 業種別動向

第一次産業では、生乳は出荷が増加している。オホーツク漁業（稚内、枝幸、網走、紋別）の水揚げは、低めの水準となっている。

第二次産業では、製材は横這い圏内の動きとなっている一方、紙・パルプは減少している。

3. 雇用・倒産動向

労働需給は、弱めの動きがみられている。

有効求人倍率（常用＜旭川、北見、稚内、網走＞）は、弱めの動きとなっている。新規求人数（同）は、緩やかに増加している。

倒産件数は、落ち着いている。

4. 金融動向

預金残高、貸出残高とも、前年より増加している。

以 上

<本件に関するお問合せ先>

日本銀行旭川事務所 電話 0166-23-3181

ホームページ <https://www3.boj.or.jp/asahikawa/>